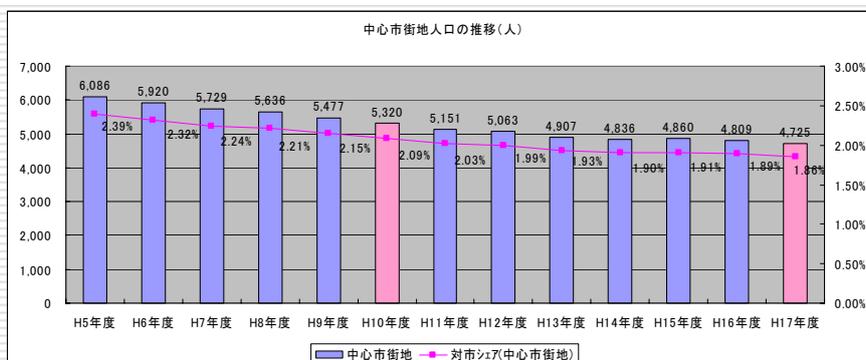


福井市の中心市街地の現況と動向

1. 人口・世帯数等

図1-1 中心市街地の人口は減少し続けている

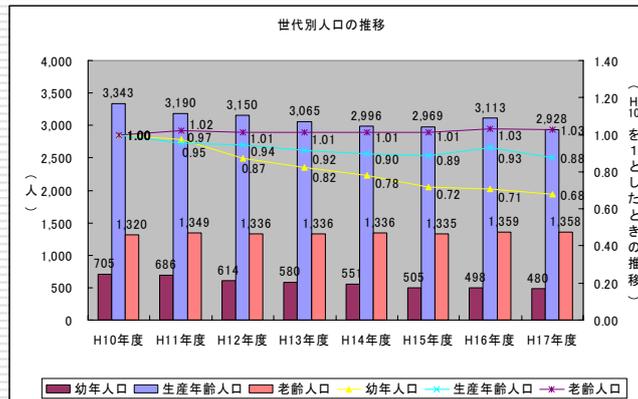
- ❑ 中心市街地の人口は、平成17年度には、基本計画策定時(平成10年度)よりも約600人(約10%)減少している。
- ❑ 対市シェア(福井市全体に占める割合)も2.09%(平成10年度)から1.86%と、0.23ポイント減少している。



(出典:住民基本台帳、各年10月1日)

図1-2 中心市街地の世代別人口の推移

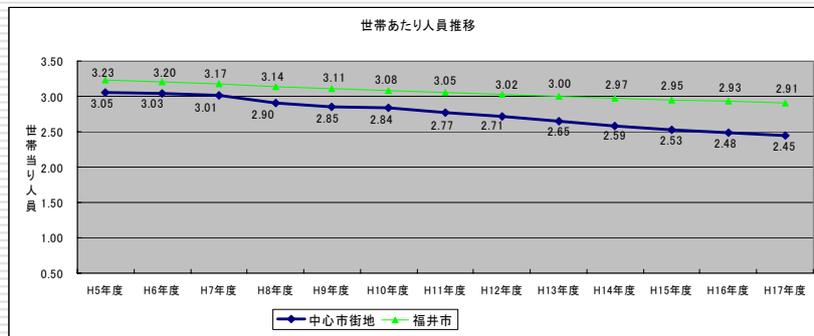
- 幼年人口(15歳未満)の減少割合が最も高く、平成10年度を1としたときに、平成17年度には0.68となっている。
- 生産年齢人口(15歳～64歳)の減少が中心市街地全体の人口減少に大きく影響を与えており、平成17年度までに約400人減少(人口減少分の7割)している。



(出典:住民基本台帳、各年10月1日)

図1-3 中心市街地の世帯人員の推移

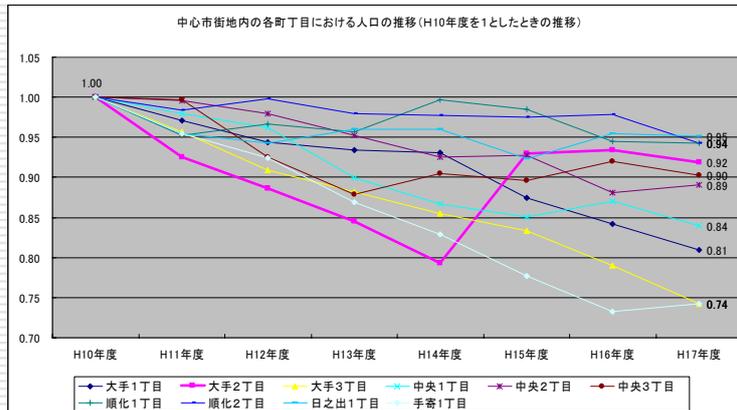
- 中心市街地の世帯人員は2.84人/世帯(平成10年度)から2.45人/世帯と、0.39人/世帯減少している。



(出典:住民基本台帳、各年10月1日)

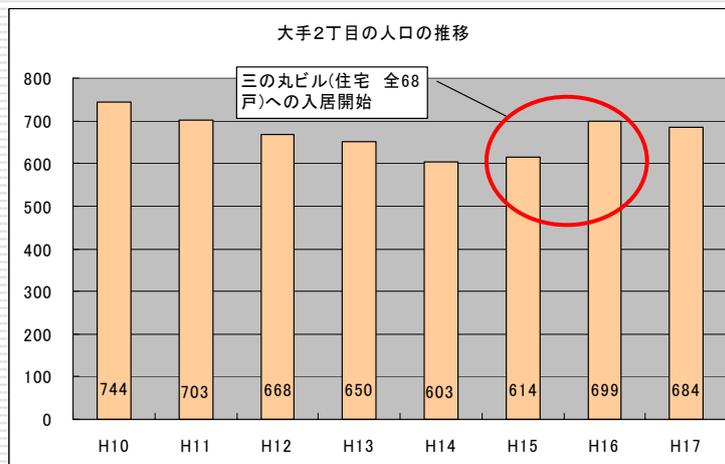
図1-4 町丁目別の人口の増減の推移(1)

- 町丁目別には、総じて減少の一途をたどっているが、大手2丁目では一時回復している(平成15年度に、前年比で85人(14%)増加)。
- 大手2丁目では三の丸地区市街地再開発事業の実施により一時的に回復基調を示したものと考えられる。



(出典:住民基本台帳、各年10月1日)

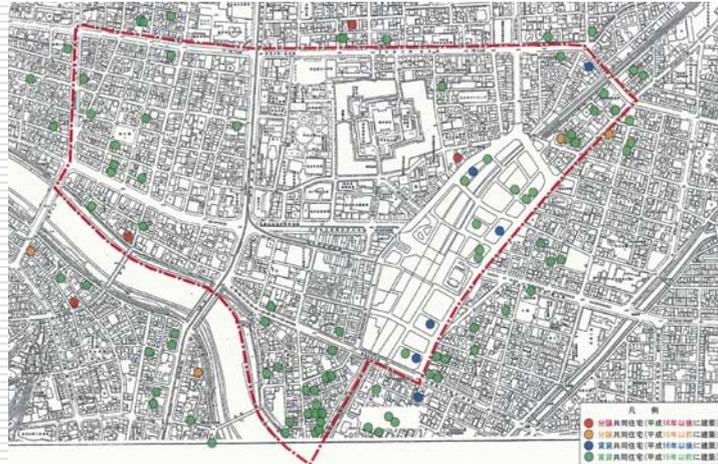
図1-5 町丁目別の人口の増減の推移(2)



(出典:住民基本台帳、各年10月1日)

図1-6 共同住宅の立地状況

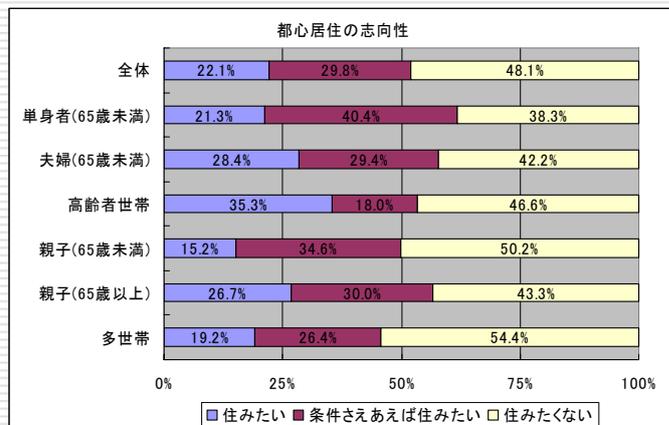
- 優良建築物等整備事業(中央3丁目、46戸)など、中心市街地でのマンションなどの共同住宅の開発がみられる。



(出典:福井市都心居住に関する研究報告書VOL. 2(平成14年度)、住宅地図)

図1-7 都心居住について(1)

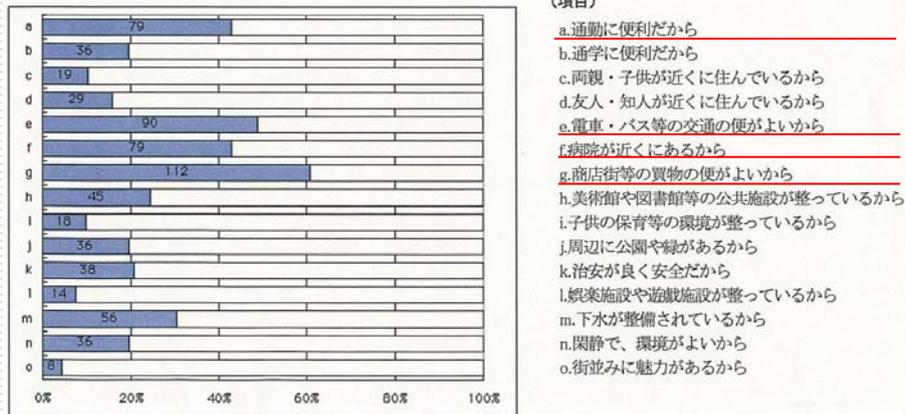
- 都心居住について、「住みたい」「条件さえあれば住みたい」と答える世帯の割合が、どの世代・家族形態についても、5割程度いる。



(出典:福井市都心居住に関する研究報告書(平成13年度))

図1-8 都心居住について(2)

- 都心居住をしたい理由として、商店街等買い物の便、電車等交通の便、通勤に便利、近くに病院があるといった理由を挙げている。



(出典: 福井市都心居住に関する研究報告書(平成13年度))

考察(人口・世帯等)

中心市街地の人口は減少傾向にあり、高齢人口以外の世代の人口が減少している。

・ウララまちなか住まい事業など都心居住支援策や土地区画整理事業、市街地再開発事業、優良建築物等整備事業など基盤整備事業の実施による居住推進が見られる。(大手2丁目、手寄地区周辺など)

・中心市街地の利便性などを理由に都心居住の意向があることから、潜在需要はあると想定される。さらに都心居住推進にかかる施策を展開することによって、人口回復につながるものと考えられる。